

現在進行形のリアルな新宿を、インターネット上で 発信・記録し続ける

新宿どこでもミュージアム

everywhere everything
SDM
新宿どこでもミュージアム

INFOMATION

2020年7月の発足から11年半ばまでに、クラウンヤマさん(道化師・2020年11月他界)、日本奇術協会、矢来能楽堂、新宿子ども劇場(未公開)、ガルパホール(未公開)、ライブハウス四谷天窓(2020年12月閉店)、フリースペース無何有、ダイニングバーLe Temps/ルタン、おでん居酒屋・花ちゃん、ロングランプランニング株式会社、歌声喫茶ともしび、ロシア料理スナガリー、神楽坂まち飛びフェスタ、神楽坂 南仏料理 LE MOCCOT/ルモコ、うた声の店 家路と、15回取材。2021年はブーク人形劇場、東京フィルハーモニー交響楽団、そしてSDMで全てのMCを担当するヴィヴィアン佐藤さんご本人などを取材。これまでに取材した動画の多くはYoutubeで公開中です。

チャンネル
登録
お願いします!



YouTube



Facebook



Twitter



新宿どこでもミュージアム 🔍 で検索!

[MC] ヴィヴィアン佐藤

美術家、文筆家、非建築家、ドラッグクイーン、プロモーター。ジャンルを横断して独自の見解で分析。作品制作発表だけではなく、「同時代性」をキーワードに映画や演劇、都市など独自の芸術論で批評展開。サンミュージック提携タレント。大正大学客員教授。



こちらもチェック!

Re:
Shinjuku

新宿のエンターテインメントを
支援する動画サイト「Re:Shinjuku」
<https://re-shinjuku.jp>



新宿区文化芸術復興支援事業により区内の劇場やライブハウス等の文化芸術施設の動画を配信しています





新宿フィールドミュージアム 企画部会座長 安保 亮

2020年4月。最初の緊急事態宣言により、新宿フィールドミュージアム(SFM)の活動は停止。参加団体の多くをはじめ、東京・新宿の文化芸術活動も、4月以降その殆どが自粛・延期・中止となりました。6月頃「こんな時でも何かやれることがあるのでは?」とSFMの有志達が連絡を取り合い、7月上旬にリモート・ミーティングがスタート。「文化芸術に関わる人も、新宿の街もお店人も大変なことになっている。とにかくその状況を残すことが大切なのでは?」と、新宿を取材収録して動画を作ろうということになりました。MCはSFMのイベントでも司会などを務めてきたヴィヴィアン佐藤さんが引き受け、かねてからSFMに様々なアイデアやデザインを提供して頂いているアートディレクターの榎本了壺さんにアドバイスを頂き、この活動を「新宿どこでもミュージアム(SDM)」と命名して頂きました。

最初の取材は2020年7月22日(水)。SFM参加団体でもある「歌声喫茶ともしび」でした。客層が高齢者中心であり、当時感染者の急増が報じられていた歌舞伎町の靖国通り向かいという立地。営業時間の短縮、予約制人数制限等々、極めて厳しい条件下、万全の感染対策を施して営業を再開していました。取材が終わり8月に入ると、ビルの建て替えが近付いていたこともあり店舗を9月末にて一旦閉店することが発表されました。9月30日のフィナーレは、NHKの取材も行われるなか、常連客が集い、歌や音楽を楽しみながら、惜しまれつつ一旦閉店となりました。

その後も、SFM参加団体を中心に取材を行い、動画の公開を続けています。

それぞれの動画では、コロナ禍関連の話題に留まりません。数百年前の伝統文化の始まりから戦前・戦後、そして日本・東京・新宿の歴史。世界の国々の様子や関わり。それぞれの時代、各地域の人々の活動や想いにまで及んでいます。本でもインターネットでも知り得ない、新宿で生き、継承し、邁進する人々だからこそ伝えられる、未来に残すべき宝物のような動画ばかりです。SDM活動開始当初の迷いや危惧は、新宿の人々に軽く一蹴されたのでした。

2022年は吉住健一新宿区長、蓄音機の会のオヤビン佐藤さん取材。吉住区長(今後公開予定)のお話しは、コロナ禍突入時の新宿の様子、風評、対策などからはじまりました。そして新宿の歴史から現在へと繋がる街と人々、新宿の現在から未来。また新宿へ集まる若者特有の問題に取り組むボランティア活動と、行政としてのスタンスを保ちながらの様々な協力体勢など、外から見るだけでは分からない新宿区の取り組みを知ることができます。

蓄音機の会のオヤビン佐藤さんは、新宿をはじめ様々な場所で蓄音機の演奏会を開催しています。今回は、月に1回程度バーテンダーをしながら蓄音機の演奏をしている、新宿ならではのオンリーワン・エリア「ゴールデン街」のバーで収録しました。コロナ禍でリモートでの演奏会が始まった一方、リモートからリアルへの参加という予想外の展開も。持ち運びも簡単で、様々な場所や空間で、人力だけでみんなが音楽を楽しめる蓄音機の魅力。またゴールデン街という独特のエリアをはじめ、新宿の街のアチコチに見られるユニークなスポットまで話題は広がりました。

新宿区長

[吉住健一]

コロナ禍の経緯もさることながら、「へえ」が止まらない新宿にまつわる文化人の話題。さらに若者達の問題への取り組みと深い配慮も伝わってきます。(近日公開予定)



新宿駅 東口 ヴィレッジ

[蓄音機の会オヤビン佐藤]

エジソンの発明から、音楽に転用されたことで音楽が急速に発展した経緯。実は手軽に持ち運べて電力不要。十分な音量と独特の温かい音色で蓄音機が演奏する、古くて新しい音楽の魅力にも触れます。

